



シチズングループ CSR報告書2010

シチズンホールディングス株式会社

●お問い合わせ先
シチズンホールディングス株式会社 監査・CSR室
〒188-8511
東京都西東京市田無町6-1-12
TEL 042-468-4776
FAX 042-466-1280
WEBサイト <http://www.citizen.co.jp/>

2010年6月発行

【特集1】

シチズングループハイライト
2009-2010

【特集2】

シチズン・オブ・ザ・イヤー20周年

【トップメッセージ】

新たな価値を創造し、着実な成長を
続ける企業グループの実現へ



この報告書は、環境社会経済のすべての側面を配慮して適切に管理された森林からの木材を使用していることを示す、FSC認証紙を使用しています。
また、印刷には、現像液を使うフィルムが不要で環境負荷低減につながるCTP印刷と有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。
さらに、生分解性や脱墨性に優れ、印刷物のリサイクルが容易な大豆インキを使用しています。



このレポートを作成した際にかかわったCO₂4,149kgは、一般社団法人日本カーボンオフセットを通じてオフセットされ地球温暖化防止に貢献します。

シチズンは、「市民に愛され市民に貢献する」企業グループとして“全員参加型CSR”をめざします。

世界各地のシチズングループ従業員に聞きました。
あなたにとって「CSR」とは？

ざします。



CONTENTS

編集方針 2
 トップメッセージ 4
 シチズングループについて 6
 シチズンの製品・技術はこんなところに
 使われています 8

特集

1 シチズングループハイライト 2009-2010 10
 シチズングループの
 2009年~2010年の主な出来事を
 ハイライトとしてご紹介します。

2 シチズン・オブ・ザ・イヤー20周年 12
 社会に感動を与える人々を
 応援し続けた20年間を
 振り返ります。

CSRの基盤

シチズングループのCSR 14

社会とシチズン

お客様とシチズン 18
 株主・投資家とシチズン 20
 お取引先とシチズン 21
 従業員とシチズン 22
 地域社会とシチズン 24

環境とシチズン

シチズングループの環境経営 26

第三者意見 30
 冊子・WEB掲載内容一覧 31

編集方針

「CSR報告書2010」は、シチズングループの事業概要および社会的責任に関する考え方や取り組みをステークホルダーの皆様にご覧いただき、お伝えするものです。

まず最初に世界各地の従業員が「あなたにとってCSRとは？」のボードを手にして登場し、CSRを担う従業員の顔が見える「全員参加型CSR」の取り組みが実感できるように表現しました。

特集1では2009年から2010年のシチズングループの主な活動をハイライトとして取り上げ、特集2では20周年を迎えた「シチズン・オブ・ザ・イヤー」を振り返り、その意義と今後の課題を確認しました。本文では各活動への考え方、体制、活動実績をわかりやすく報告するように心がけました。

本報告書は当社のCSR活動を広く社会に報告するとともに、シチズングループ従業員一人ひとりがCSR活動の現状を理解し、それぞれの職務を通じて実践していけるような従業員へのメッセージとしています。

また、今年度よりシチズングループの活動をよりわかりやすくお伝えするため、WEBサイトにすべての項目を網羅的に掲載し、冊子はページ数を圧縮し、年度の取り組みのなかでとくに重要なものを抜粋して報告する開示方法に変更しました。シチズングループのCSR活動の詳細は下記のWEBサイトをご覧ください。

シチズングループCSR報告WEB版

日本語版
<http://www.citizen.co.jp/social/index.html>

英語版
<http://www.citizen.co.jp/english/csr/index.html>

昨年の第三者意見への対応

2009年度に五代様からご指摘がありました「簡潔な文章で読んでもらう工夫」につきましては心がけて編集しました。

秋山様からご指摘のありました「PDCA(計画・実行・検証・改善)の流れを明確に」に対しては、CSRの取り組みの一端を一覧表にて掲載しました。また「海外での課題や取り組みについて一層の情報が欲しい」というご指摘については、グループCSR活動状況調査でも、海外でのCSR活動強化が必要との結果が出ており、2010年度の最優先課題として取り組んでいきます。

報告対象と報告範囲

経済データ・社会データ：国内外シチズングループ(計82社)
 環境データ：国内外シチズングループ(計27社)

報告期間

2009年度(2009年4月1日~2010年3月31日)
 ただし、一部2010年度の内容を含みます。

参考にしたガイドライン

「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2006」(GRI)
 「環境報告ガイドライン(2007年版)」(環境省)
 「環境会計ガイドライン(2005年版)」(環境省)

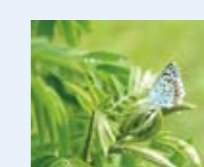
発行時期

2010年6月(前回2009年6月、次回予定2011年6月)

免責事項

本報告書には、将来予測も記載しています。これらは記述した時点で入手できた情報に基づいたものであり、実際の活動結果が予測と異なる可能性があります。

表紙の写真



シチズンファインテックミヨタが保護活動に参加している絶滅危惧類「オオルリジミ」を使用しています。

詳細は25ページに掲載



新たな価値を創造し、着実な成長を続ける企業グループの実現へ

— 創立80周年を迎えて

シチズングループは、2010年に創立80周年を迎えました。ここに至る道のりは決して平坦ではなく、幾多の危機に直面した際も、その都度乗り切ってまいりました。いま80周年という節目の年を迎えることができましたのは、これまでシチズングループを支えていただいたお客様、従業員、株主、お取引先、地域社会など、すべてのステークホルダーの皆様方のご支援の賜物であると、この場をお借りして改めて感謝いたします。

— さらなる体質強化、新たな成長への挑戦

世界同時不況に伴う経済危機に直面し、シチズングループの企業経営について改めて深く考える機会となりました。今回の不況がもたらした新たな状況としては、経済環境構造が根底から大きく変化し、従来のやり方のままでは通用しないという現象があらゆる分野で生じているということです。この状況を踏まえ、2010年度からの中期経営計画におけるグループビジョンでは、めざす姿を『着実な成長を続ける企業グループ』としています。そのために、当たり前のことをきちんと実行する取り組みによってさらなる体質強化を

図り、持続力のある着実な成長を遂げていくという目標を掲げました。

短期的な数値目標の達成ではなく長期的な視点から地道な体質改善をめざす背景には、日本の製造業を取り巻く環境がこれまでと大きく変化したことがあります。これからは戦後65年間築いてきた競争環境とはまったく違う、新しい世界での競争が始まります。価値が多様化するなかで、市場が本当に求めている価値を提供していかなければ企業としての存在意義はありません。それはまた、シチズングループにとって新しい価値を打ち出していくチャンスの到来を意味しています。

シチズングループ企業理念

For the citizen

「市民に愛され市民に貢献する」

| グループVISION |

**小型精密技術とたしかな品質を起点として、
新たな価値を創造し、
着実な成長を続ける企業グループ**

シチズングループ 2010年度 中期経営計画テーマ

「さらなる体質強化 新たな成長への挑戦」

— シチズングループが創りだす 新たな価値の創造

経済環境と人々の価値観は変化しています。新たな価値とは、そうした変化をいち早くとらえた上で、自社の強みを活かして何ができるのか、何をすべきなのかを考えていくことから生まれてきます。小型精密技術をコア技術とするシチズンは、80年間、品質を原点とし、品質にこだわり成長を遂げてきました。最近では、製造拠点の拡がりによって品質へのこだわりや統制が以前よりやや薄れてきている感があります。しかし、今後シチズングループが成長する根拠となるのはやはり品質しかありません。いま一度足場を固め、それをたしかな起点として創造する新たな価値。それが他社とは差別化された当社独自の価値であり、シチズングループらしさであると考えています。

— シチズングループがめざすCSR

今年は、シチズングループの社会貢献活動の一つである「シチズン・オブ・ザ・イヤー」20周年に当たります。この活動は、市民に感動を与え、市民社会の発展や幸せ、魅力づくりに貢献した無名の市民を顕彰するもので、1990年から毎年続けてきました。活動に特定の価値基準を設けることなく、「何のために行われているのか」という市民の“心”の部分に焦点を当てています。この考えの根本は、シチズングループの企業理念「市民に愛され市民に貢献する」にあります。企業が行うCSR活動も、結果だけではなく、どういった心構えで活動したのかというプロセスに焦点を当てるべきでしょう。着実かつ持続的で“心”に価値を置いた活動こそが、あるべき社会貢献の姿であり、「良質な会社」への道程だと思えます。

環境活動については、日本で昔から言われている「無駄をなくす」という考え方が基本になると思います。CSRも環境への取り組みも一つの行動規範であり、これらを一人ひとりがどのように解釈しているかが重要です。社会のため、人のために貢献していくことに喜びや満足を感じられる従業員が、シチズングループのCSRを担ってくれると期待しています。

— 着実な成長を続ける企業グループを めざして

これまでお話したように、シチズングループは、長期的な視点に立って本質的な企業力を高め、継続的に成長することによってステークホルダーに報いていきたいと考えています。その原動力は、従業員一人ひとりの向上心や充実感です。誇りや生きがいをもって一人ひとりが「心の豊かさ」を実感できるシチズングループをめざして、新たな価値を創造し、着実な成長を続ける企業グループを実現していきます。

「シチズングループCSR報告書2010」がここに完成いたしました。皆様からのご意見ご感想を頂戴できれば幸甚に存じます。今後ともシチズングループへのさらなるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年6月

シチズンホールディングス株式会社
代表取締役社長

金森 充行

「国連グローバル・コンパクトに参加」

シチズングループは、2005年4月に「国連グローバル・コンパクト」への参加を表明し、グループを挙げてその10原則の支持・尊重・実行をめざしています。具体的な指針として、グローバル・コンパクトの精神を踏まえた「シチズングループ企業行動憲章実行の手引き」をまとめ、グローバル・コンパクトの精神の徹底に努めていきます。

世界をリードする小型化・精密技術で人々の期待や憧れを実現する確かな価値を提案し続けます

シチズングループは、「市民に愛され市民に貢献する」を企業理念に、時計事業で培ってきた超小型技術・超精密技術・低消費電力技術などを活かした多彩な事業をグローバルに展開しています。

“技術と美の融合”をコンセプトに多彩な商品を創造する

時計事業、エレクトロニクス機器に不可欠な部品を提供する電子デバイス事業、プリンターや健康機器を提供する電子機器製品事業、ミクロンの精度で部品を高速加工する産業用機械事業——これらすべての事業と製品にシチズンの「Micro HumanTech」が息づいています。

時計事業

“技術と美の融合”、それは最新のテクノロジーと、繊細な美しさが溶け合うことで生まれる新しい価値。この言葉なくしてシチズンの時計は生まれません。世界中の人々に愛される時計をつくりたい。私たちのこの思いは、新しい「美しさ」と最先端の「技術」を追求し続けることにも込められています。もつ人を魅了する新しい価値を提供していくため、これからも時計事業は進化を続けます。

売上高比率

49.0%



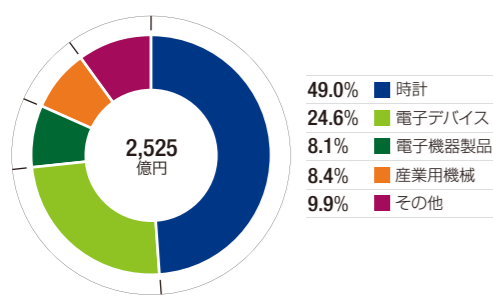
エコドライブ電波時計

会社概要

社名	シチズンホールディングス株式会社	資本金	326億4,889万円(2010年3月31日現在)
設立	1930年5月28日	従業員数	19,627名(連結：2010年3月31日現在)
本社所在地	〒188-8511 東京都西東京市田無町6-1-12	売上高	2,525億円(連結：2009年度)
代表者	代表取締役社長 金森 充行	上場	東京証券取引所第一部

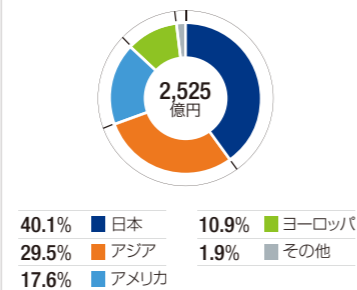
事業別売上高比率

連結：2009年度



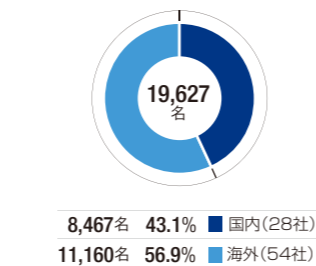
地域別売上高比率

連結：2009年度



地域別従業員比率

連結：2010年3月31日現在



電子デバイス事業

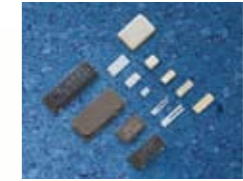
売上高比率

24.6%

通信機器の小型化・高性能化によって、低消費電力と高い信頼性を兼ね備えた精密技術が求められています。シチズンのDNAを受け継ぐ超小型・超精密組み立て技術や、時計で培った水晶振動子、液晶などの技術をベースとして、情報化社会を支えるさまざまな事業や機器に、電子デバイスを提供しています。



LED照明



水晶デバイス



LED照明を使用したロビー

電子機器製品事業

売上高比率

8.1%

ウォッチ技術の蓄積から生まれた小型・精密・低消費電力のテクノロジーは、さまざまなビジネスの現場で使われる業務用プリンターや電子機器に活かされています。電子体温計や電子血圧計などの健康機器は、あらゆる人にやさしく使いやすいユニバーサルデザインの思想をいち早く取り入れ、これからも人にやさしく便利で快適な暮らしをサポートしていきます。



ラインサーマルラベルプリンター



サーマルプリンター



手首式電子血圧計

産業用機械事業

売上高比率

8.4%

時計生産のための設備機械を自社で開発してきたノウハウや技術を活用し、「削る」「組む」「測る」の生産に必要な産業用機器を開発し提供してきました。ものをつくることに喜びを覚え、つくられたものが感動を呼ぶような、共感の連鎖こそ製造業を豊かにしていくと考えています。これを「感動価値」生産と名付け、事業活動のなかで大切にしています。



NC自動旋盤

その他の事業

売上高比率

9.9%

小型精密加工技術、組み立て技術、表面処理技術、実装技術を縦横に応用して、自動車の安全を守る部品、医療現場や半導体装置で使われる精密制御コンポーネント、アミューズメント機器のシステムなどを独自に展開。マリッジリングなどの宝飾、アイススケートなどのレジャーサービスも手がけています。



自動車用部品



マリッジリング

シチズンの製品・技術はこんなところに使われています

シチズンは多岐にわたる事業で社会とつながっています。暮らしのなかの見えないところでもシチズンの製品・サービスが活躍しています。

25 セラミックス部品 (光通信部品)

光ファイバーケーブルのコネクタ接続部に使用。

24 高信頼性液晶 (ガスメーター)

高温、高湿下での使用に耐えられる仕様。

23 電子辞書

国語・カタカナ語、英和・和英辞書をはじめ医学・健康情報も収録。

22 体温計

約30秒の高速測定。やさしい先端部がわきにやさしくフィット。

血圧計

見やすい表示と簡単操作で健康管理をサポート。

21 水晶振動子 (家電製品全般)

電子機器を正常に動作させるための基準信号。

20 液晶光学素子 (ブルーレイディスクレコーダー)

ディスクの読み書きの高性能化に貢献。

LD*用サブマウント (ブルーレイディスクレコーダー)

放熱性の高いセラミックス基板。

*Laser Diodeの略。半導体ダイオードで構成されたレーザー。

19 水晶振動子 (携帯電話)

待ち受け時の動作のタイミングをとる規則正しい信号を発振。

LED (携帯電話)

携帯電話のキー照明や、フラッシュ、バックライトに使用。

電子ペーパー (携帯電話)

電子ペーパーのメモリー性、フレキシブル性を利用して世界初の電子ペーパーキーボード。

18 HDD用ガラス基板 (ノートパソコン)

精密切削・研磨・洗浄で最先端のガラス加工。携帯型音楽プレーヤー、カーナビにも使用。

4 ジャイロセンサー (デジタルカメラ)

高精度手ブレ補正機能。

LCOS* (ハイズームデジタルカメラ)

ビューファインダーのなかで使われているフォーカスエリアを表示する液晶。

小型スイッチ (デジタルカメラ)

シャッタースイッチなどに使用。

PN液晶 (一眼レフカメラ)

ビューファインダーのなかで使われているフォーカスエリアを表示する液晶。

5 マリッジリング

キズつきにくく変形しにくい指輪。

6 マラソン計時装置

磁気反転方式で見やすい表示。マラソン中継には欠かせない時計。

7 自動車用部品

ABS・エアバッグ・エンジンなどに用いる部品を製造。

LEDバックライト・ユニット (カーナビ)

カーナビの薄型化、省エネに貢献。

8 ビューファインダー (プロ用のビデオカメラ)

スポーツの速い動きにも対応できる高解像度のビューファインダー。

9 設備時計

建物の外観と一体になり地域のシンボルとして愛されている時計。

10 LCOS* (プロジェクター)

映像エンジンに使用。高精細・高画質を実現。

11 LED (照明)

低消費電力で長寿命。水銀レスで環境にやさしい光源。

12 セルフォーダーシステム

飲食店の座席からタッチパネルを操作しメニューを注文。

13 メモリー性液晶 (電子棚札)

電源を切っても表示が維持され、超低消費電力を実現。

14 POSサーマルプリンター

レシートやクーポン・チケット券の発行に使用。

15 フォトプリンター

スーパーや写真屋で手軽に写真印刷。

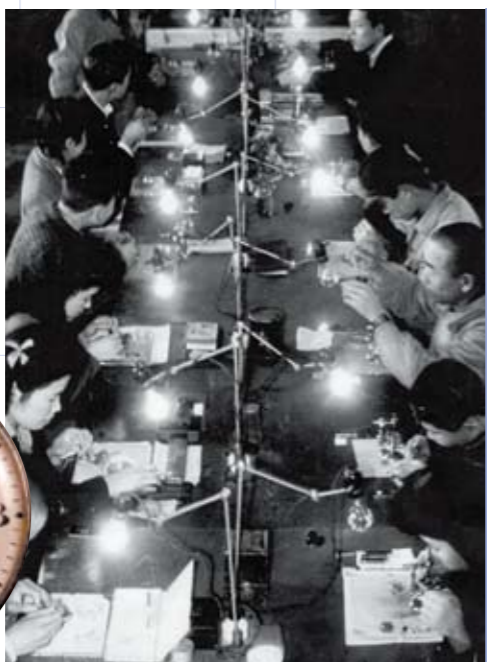


*Liquid Crystal on Siliconの略。シリコン基板を使用した液晶表示パネル。

*Liquid Crystal on Siliconの略。シリコン基板を使用した液晶表示パネル。

シチズン創立 80周年

尚工舎時計研究所ではじめて
生産された懐中時計



終戦後生産再開した頃の工場

懐中時計の国産化をめざした尚工舎時計研究所を前身としたシチズンは2010年で創立80周年を迎えました。産業国産化の気運が高まっていたなかで産声を上げたシチズンは、第二次世界大戦の戦禍を乗り越え、着々と業容を拡大していきました。

時計事業においては、メカからクォーツ、そしてエコドライブ、電波時計と先駆的技術開発に取り組み、業界をリードし続けてきました。また、時計製造のための機械づくりに取り組んだ結果、さまざまな工作機械も産業界に提供し続けてきました。

時計事業における製造技術、精密技術は電子機器事業への発展をもたらし、さらには水晶振動子、液晶、LEDなどのデバイス分野へ進出し、現在のシチズングループを形成するに至り、日本はもとより世界各地に販売網を拡大してきました。

こうした取り組みは、「市民に愛され市民に貢献する」を企業理念とし社名を「シチズン」とした時点から変わることなく追求してきたことのあらわれであり、この姿勢は今後も変わることはありません。

シチズングループハイライト 2009-2010

シチズングループは、「Micro HumanTech:超小型技術・超精密技術・低消費電力技術」により時計をはじめ、電子デバイス、電子機器、産業用機械など多彩な製品群の提供を通じて、人々の生活の豊かさや産業の発展に貢献しています。

また企業理念である「市民に愛され市民に貢献する」の実践に向けさまざまな活動を行っています。ここでは、シチズングループの2009年～2010年の主な出来事をハイライトとしてご紹介します。

世界に先駆けて開発した技術 「エコ・ドライブ」

日本でエコという言葉が一般的に使われる以前の1995年に、シチズンでは太陽電池を搭載した時計を“エコ・ドライブ”と命名しました。

1996年に時計としてはじめて「エコマーク商品」に認定されて以来、今日までエコドライブは太陽光発電時計の市場をリードし続けてきました。

2009年のパーゼルフェアでは、エコドライブのコンセプトモデルの一つ、エコドライブドームを発表しました。デザインと技術の可能性を追求したCITIZENの未来の可能性を示唆したこのモデルは、文字板を含めたエコドライブのエンジンをケースが包み込むような斬新なデザインで、光のエネルギーを身に着けるというコンセプトを表現しています。



創立80周年記念モデル「エコドライブドーム」

照明用LEDで消費電力 約1/10を実現

シチズン電子では、多様な照明用LEDパッケージを提供しています。それらのパッケージにおいて、世界最高レベルを誇る高出力・高効率タイプ、特に赤の見え方を大幅に向上させた高演色タイプなど、さまざまな用途に適した多彩な製品を提供しています。

2009年に発表した照明用LED「CL-L103シリーズ」(6W)は同等の明るさの白熱電球(60W)と比較して、消費電力を約1/10、CO₂排出量に換算すると907kg削減することが可能です。(40,000時間点灯の場合)

今後、地球規模で取り組まなければならない温暖化対策に向けて、このLED照明の優れた環境性能を利用してさまざまな場面で貢献できることが期待されています。



照明用LED CL-L103シリーズ(6W)

現代の名工 ～マイスターによるものづくり～

1967年、平和時計製作所(現シチズン平和時計)に入社。

以来43年間、時計のムーブメントの組み立てから完成品組み立てに従事し、2005年には社内規定で最も優れた技能をもつ「スーパーマイスター」にただ一人選ばれました。

量産の立ち上げから後進の育成、ものづくりの楽しさを伝える地域活動にも精力的に貢献し、2006年には「時計組立・修理工」職種で卓越技能(信州の名工)、そして2009年度、厚生労働大臣表彰「現代の名工」を受賞しました。

卓越した技能者の表彰式



「現代の名工」とは

卓越した技能をもち、その道で第一人者とされている技能者を毎年一回、厚生労働大臣が表彰する制度。技能者の地位および技能水準の向上を図るとともに、青少年がその適性に応じ、誇りと希望をもって技能労働者となり、その職業に精進する気運を高めることを目的としている。



シチズン平和時計 時計製造部
技能育成担当部長
スーパーマイスター
橋場 悦子

社会に感動を与える人々を 応援し続けた20年

市民に感動を与え、市民社会の発展や幸せ、魅力づくりに貢献した市民を選び毎年顕彰している「シチズン・オブ・ザ・イヤー」。

2009年度の受賞者発表と表彰式が2010年1月27日に行われました。

今回で20回目を迎える表彰式はグループ各社の社長および従業員85名、マスコミ22社が出席し、例年以上に心温まる会となりました。



シチズン・オブ・ザ・イヤー第一回表彰式

詳細は次頁をご覧ください。

シチズン・オブ・ザ・イヤーは20周年を迎えました。

CITIZEN OF THE YEAR SINCE 1990

シチズン・オブ・ザ・イヤーとは？

市民社会に感動を与えた無名の人々を選び毎年その行動や活動などを称えています。

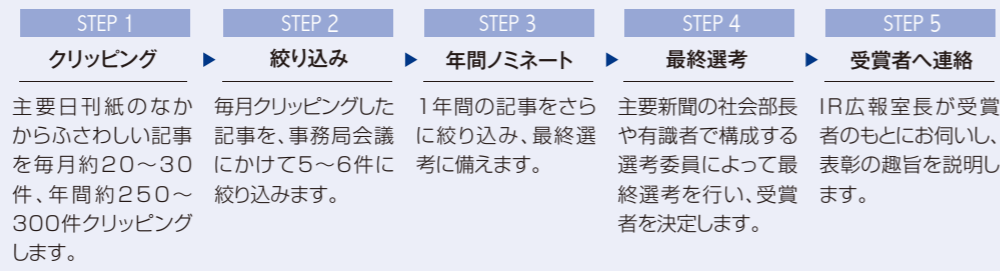
「シチズン・オブ・ザ・イヤー」は、市民に感動を与え、市民社会の発展や幸せ・魅力づくりに貢献した市民を選び毎年顕彰する制度です。シチズン創立60周年に際し、広い視野から無名の市民を称える賞が見られなかったことから社名の「CITIZEN(市民)」にふさわしいものをと1990年に創設されました。これまで、日本人の方はもちろん、日本で市民社会に貢献された外国人の方も顕彰し、新聞やテレビなどでも紹介されている賞です。



2009年度の授賞式

選考方法

1年間に発行された主要日刊紙の記事のなかから、シチズン・オブ・ザ・イヤー事務局が候補をノミネートします。その後、選考委員会にて候補者を対象に討議を行い、決定しています。



これからもより良き企業をめざし、市民の良き活動をサポートしていきます

今から20年前「『市民に愛され市民に貢献する』という企業理念を具現化する、創立60周年にふさわしい企画はないか」——中島社長(当時)の問いかけに応じて広報室(当時)が提案したのが「シチズン・オブ・ザ・イヤー」です。当時はバブル絶頂期で、世間では「メセナ」と称して、派手なイベントが多く企画されていましたが、「シチズンらしさ」「社会性」「持続性」の3点を基本コンセプトに、地味でも継続することで社会に受け入れられる企画として、この賞は誕生しました。賞のコンセプトが当社の理念と風土にしっかり合致していたからこそ、20年間継続することができたのだと思っています。

歴代受賞者の皆さんの活動を改めて思い起こすと、一人ひとりの心温まる行為に感動するとともに、「良き社会は、大勢の良き市民に支えられている」ということを実感します。さまざまな価値観が急速に変化する時代にあっても、人による善行とその根底にある他者を思いやる気持ちは「不変の価値」なのではないでしょうか。CITIZENという社名を掲げるシチズングループは、今年創立80周年を迎えますが、市民社会の一員としてより良き企業をめざし、これからも良き市民をサポートし続けます。

シチズンホールディングス
代表取締役社長
金森 充行



2009年度の受賞者紹介

社会貢献活動

よしま みきこ
吉島 美樹子さん
(48歳 青森県八戸市)
「岩手ホスピスの会」事務局長



ガン治療による脱毛に悩む人に「タオル帽子」の型紙を作成し、贈り届けている



抗ガン剤の副作用で脱毛に苦しむ母親を案じた娘さんからの相談をきっかけに、タオルで帽子をつくることを発案。型紙をつくり見本の帽子と一緒に贈る活動を続けています。ご自身も30歳のとき血液のガン悪性リンパ腫を患い、副作用の脱毛で悩んだ経験を持ち、保育園の調理師をしながら「岩手ホスピスの会」を始め、タオル帽子づくりの講習会を地元で開始したのは2008年6月。タオル帽子は色や柄が選べる、肌にやさしい、洗いやすいという利用者の声が寄せられ、県外や医療関係者の参加も増えるなど、帽子づくりの輪は全国に広がっています。

自己実現活動

たいら みずき
多以良 泉己さん
(34歳 神奈川県鎌倉市)
北鎌倉 天使のパン・ケーキ職人



リハビリで始めたパンづくりが「天使のパン」として多くの人に勇気を与えている



2005年8月競輪レース中の落車事故により全身麻痺で言葉も話せなくなったが、結婚したばかりの妻・総子さんと力をあわせての懸命のリハビリを行い奇跡的な回復をとげ、その年の暮れに退院。指先と脳のリハビリに効果があると始めたのがパンづくり。2008年夏にはホームページで注文を受けはじめ「天使のパン」とよばれ口コミで評判となりました。すべてオーダーメイドで、朝4時に起きて1日につくれるのは3~5個。注文メールには病気のことや家族への思いを書き込んでくる人も多く、「癒されました」「生きる勇気がわいてきました」といった礼状もたくさん寄せられています。

人命救助活動

しげ ゆきお
茂 幸雄さん
(65歳 福井県坂井市)
NPO法人
「心に響く文集・編集局」代表



自殺を防ぐための相談所をつくり、パトロールと再出発支援を行う

景勝地・東尋坊を管轄する福井県三国署を退官した2004年4月、同地で自殺防止活動を開始。



県警時代に、保護した初老の夫婦が数日後に、茂さん宛の手紙を残して心中するという体験をしたことが活動の原点。仲間20人程とNPO法人を設立し、空き店舗を借りて相談所を開き、午前中と日没前後の2時間ずつ絶壁沿いに1周1.4キロを回るパトロールを実施。2010年1月末までに保護した人は232名。不況のせいか最近では経済的理由が多く30代男性が目につく。保護した後のケアにも取り組み、自殺志願者保護の全国レベルでのネットワークづくりにも取り組んでいます。

市民活動に光を当てる、誠実で意義ある賞 | 20年間選考委員長を務められた五代さんにお聞きしました。

市民活動を顕彰し続けてきた20年

1990年に創設されたシチズン・オブ・ザ・イヤーが、今年で20周年を迎えました。はじめてこの顕彰のお話を伺ったとき、いかにもシチズンらしい誠実な企画だと思ったことを覚えています。この賞は華やいた文化支援とは趣を異にし、社会貢献や自己実現を含む地道な市民活動に光を当てている点に魅力を感じます。この20年間、社会も暮らしもめまぐるしく変化してきましたが、シチズン賞に輝く人々の諸活動の原点は不変です。それを見出して顕彰することにこの賞の意義があるのだと思います。

若い市民の活動にもっと光を

20回に及び選考会を通じて、包み込むような温かさや、他者への思いやりや、自らを奮い立たせる勇気がどれだけの力を発揮するかを教えられました。それでも決定後「この活動が本当に一番ふさわしかったらどうか」という不安があります。毎回の受賞式ではその不安を払拭する素晴らしい方々にお目にかかり、それが何よりの喜びでした。

今後は若い人たちの動きも積極的に取り上げていただきたいと思います。地域社会のなかで多様な活動を展開している「若い市民の存在」を広く社会に伝える役割もシチズン賞に期待しています。

シチズン・オブ・ザ・イヤー
選考委員会委員長
評論家

五代 利矢子さん



シチズングループのCSR

シチズングループは、「シチズングループ企業行動憲章」をもとにステークホルダーとのコミュニケーションを図り、「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念の具現化をめざします。

シチズングループ企業行動憲章

シチズングループは、2007年4月の純粋持株会社体制への移行に伴い、グループ各社の役員・従業員がステークホルダーに対する共通の認識をもって行動し、より一層の社会

的責任を果たしていけるよう、「シチズングループ企業行動憲章」を制定しました。グループ各社は、グループ共通の企業理念「市民に愛され市民に貢献する」のもと、事業特性や地域特性、歴史や企業風土などを尊重し、それぞれの責任のもとでCSR活動に取り組んでいます。

シチズングループ企業行動憲章

わたしたちは、あらゆる法令、社内規則を守り、企業行動憲章に従って行動します。

シチズンは、「市民に愛され市民に貢献する」企業理念のもと、

- ① 安全、品質、環境に十分配慮した製品とサービスを顧客に提供します。
- ② 商取引においては、公正、透明、自由な競争を行い、また政治、行政とは健全な関係を保ちます。
- ③ 広く社会とのコミュニケーションを図り、企業情報を積極的かつ公正に開示するとともに、適切な情報管理を行います。
- ④ 環境問題は人類共通の課題であり、また企業の存在と活動に必須の経営課題であることを認識し、自主的、積極的に取り組みます。
- ⑤ 良き企業市民として、地域社会との共生を大切にし、社会貢献活動に努めます。
- ⑥ 安全で働きやすい職場環境を確保するとともに、従業員の能力、活力を引き出し、人格、個性、多様性を尊重します。
- ⑦ 反社会的勢力及び団体には、毅然たる態度で対応します。
- ⑧ 海外においては、その文化や慣習を尊重し、現地の発展に貢献するよう努めます。
- ⑨ グループ各社の経営トップは、本憲章の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、社内に徹底するとともに、関連企業や取引先に周知します。また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制の整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図ります。

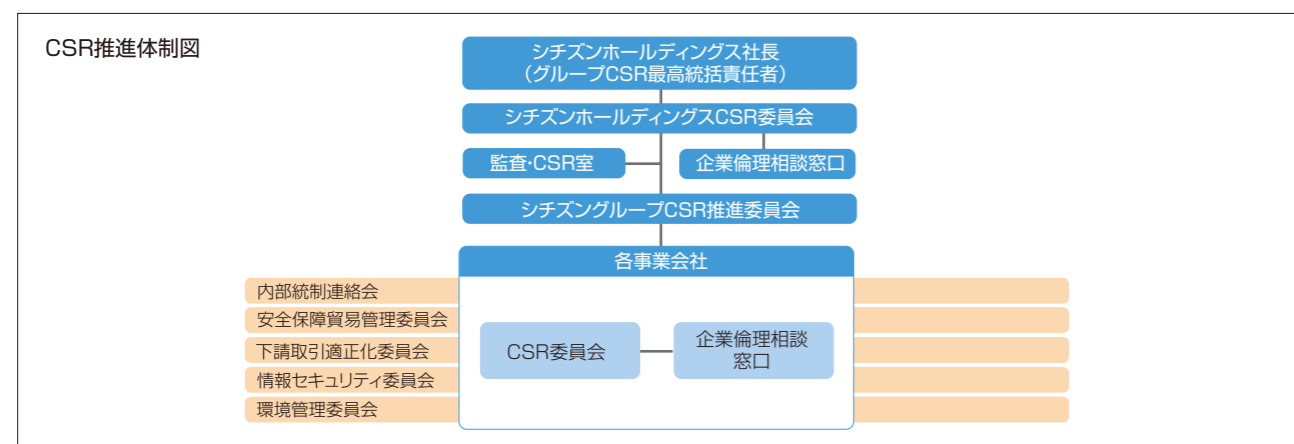
発効日2007年4月6日

シチズングループCSR推進体制

シチズングループのCSR活動は、シチズンホールディングスの社長を最高統括責任者とし、社長直属の専任部署である監査・CSR室が事務局を務める「CSR委員会」が、グループの方針や政策を立案・提言しています。CSR委員会は、シチズンホールディングスの代表委員で構成されています。

また、CSR活動をグループ一体となって進めていくために、事業会社ごとに「CSR委員会」を設けるとともに各社から選出されたCSR担当責任者で構成する「シチズングループCSR推進委員会」を設置しています。

さらに、内部統制システム管理、安全保障貿易管理、下請法の遵守状況管理、情報セキュリティ対応、環境管理など、シチズングループにとって重要なテーマについては、グループ各社が参加する各種の専門委員会を設けて、施策を立案・実施しています。



より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。
シチズンホールディングス「CSR」の基盤
シチズングループのCSR

CSR活動の目標と取り組み状況

2009年度の取り組み状況

シチズングループでは、2007年度から毎年各社で「CSR活動目標」を設定して展開を図ってきました。

「シチズングループ企業行動憲章」の条項に沿ってCSR活動目標を定め、年度末に実績をまとめ、今後の課題を明らかにすることでPDCAを回しています。

以下に2009年度のCSR活動目標と取り組みの一端を一覧表にて紹介します。

2009年度CSR活動目標・実績と今後の課題		A:目標通り達成 B:ほぼ達成 C:課題あり D:未実施				
企業行動憲章	CSR活動目標	会社名	2009年度取り組み状況	評価	今後の取り組み・課題	参照
第1条 製品の安全・品質	お客様時計相談室の質の向上	シチズン時計	相談受付・対応の体制の改善を目標として活動。問い合わせ内容を分析し、関係部門へのフィードバック（VOCの発信）をスタート。	A	事例抽出ガイドラインを作成し推進。	P18,19
	クレームの低減と歩留まり向上対策	シチズンファインテック クミヨタ	品質向上会議でクレーム対応と第三者監査対応状況を確認。全社で情報を共有し水平展開を実施。歩留まり向上活動の結果廃棄率は0.43%削減することができた。	B	第三者監査の内容を把握し他部門への水平展開を推進。	P19
第2条 商取引	下請法遵守の徹底	シチズン電子	違反件数ゼロを目標に活動を実施した。中小企業庁の立入検査があり、数点の指摘事項を受けて改善報告書を提出したが、重大な違反事項はなかった。	B	委員会を中心に関係部門と遵守活動を継続。	P21
	安全保障貿易の適正管理の実施	シチズン平和時計	外為法の改正への対応として社内規定を改訂し、講習会を実施。該非審査を実施した。	A	審査体制の維持と強化。技術輸出管理の対応。	-
第3条 コミュニケーション・情報管理	知的財産権に対する対応力の向上	シチズン時計	新設計・新技術導入時において、第三者知的財産権の侵害を防止するためのシステムを強化。	A	システムの維持、および知的財産の重要性に対する意識強化。	P17
	J-SOX内部統制の推進	シチズンファインテック クミヨタ	J-SOX評価委員会を中心に、内部統制の整備、運用評価を実施。改善事項として販売管理規程、購買管理規程などの改訂を行い統制内容を整備した。	A	その他の業務規程の改訂を促進。	-
第4条 環境管理	試作レス・削減による環境負荷の削減	シチズン時計	腕時計の開発では、種々シミュレーションの導入、実用化を推進することにより、試作回数、試作数量を削減。さらに、開発時間の短縮、問題点の早期検出によるロス軽減を図った。	A	種々の方策をさらに強力に推進し、環境負荷の軽減を推進。	-
	環境配慮型製品の開発	シチズンマシナリー	環境配慮型製品用アセスメントリストを策定。とくにグリーン調達に際しては、リストに規定されている基準書の説明会を調達取引会社に対して実施。2010年度中に環境配慮型の新製品実現をめざして取り組み中。	B	環境配慮型製品の開発を継続。	-
第5条 社会貢献	ウォーキング大会への協賛	シチズンシステムズ	11月の日本スリーデーマーチなどのウォーキング大会、西武沿線でのハイキングイベントに協賛し、サポートを行った。	A	協賛、サポートを継続。	WEB
	地域社会とのつながりを大切に、交流を通じての社会貢献活動の推進	東京美術	東京国立博物館の賛助会員としての文化活動への参加。7月に森林ボランティアとしてシチズンボランティアクラブの都立八国山緑地での下草刈りに参加。	B	本業に關係する活動を模索しながら継続。	-
第6条 従業員	事業継承に適した人材確保と育成計画	シチズンセイミツ	マイスター・指導員制度を導入し、指導員3名を認定。指導マニュアルを整備するとともに指導塾を開始。	B	全部門での展開。指導員のスキルアップと、マイスターの任命。	-
	職場の安全確保とメンタルヘルスの実施	シチズン電子タイムル	安全/トラールで設備の安全装置の動作確認や5S状態の確認を4回実施し、不具合の是正処置を行った。11月にメンタルヘルス診断、2月にカウンセリングを実施。	A	継続実施。	-
第7条 反社会的勢力	反社会的勢力への対応	シチズンプラザ	各部門共同して対応策を再検討し強化した。盗難、防犯対策の強化と、巡回方法の強化を実施。	A	継続実施。	-
第8条 海外現地の発展	中国工場における福利厚生充実	シチズンセイミツ	1,700名収容の宿舎が完成し、食堂のスペースの拡大、配膳室の衛生面改善、エアコン設置などリニューアルを行った。	A	衣食住環境の満足度の向上と社会保険制度への加入促進。	-
	中国工場での安全衛生・環境活動	シチズン東北	6SE委員会(5S+安全S+環境E)を中心に各職場での自己評価を行い、安全衛生環境の改善対策を実施。職場/トラールにて安全確認を実施。環境では排水委員会が排水量、BODの低減対策を実施。	B	改善事項の水平展開。工程内の水のリサイクル技術の開発など。	WEB
第9条 経営者の責任	目安箱への投函意見への対応	シチズンファインテック クミヨタ	会社の全活動に対する評価として「現場の声」を聞き、意見・進言・提案により諸改革を推進するために「目安箱」を設置している。22件の投函意見について、関係部門と協議を行い対策を図った。	A	継続実施。	-
	6S活動から7S活動への移行と改善活動のレベルアップ	シチズンセイミツ	独自の6S活動(5S+作法S)に安全Sを追加して、不安全行動の撲滅を推進。7S診断では全社平均4.79ポイント(5点満点)となり目標を達成。部門間差も大きく縮小。	A	組織的な活動は確立されたので、今後は成果を得る活動へ移行。	WEB

2009年度の総括と今後の課題

2009年度は、企業行動憲章各条項に対する進捗状況を確認するため、グループ29社に対してCSR活動状況調査を行いました。この調査結果と2009年度CSR活動実績をまと

めると、1)海外でのCSR活動の強化、2)製品供給責任の面からの事業継続計画(BCP)の策定、3)購買面でのCSR基準の導入(CSR調達)、4)地域における社会貢献活動の推進などが今後の優先課題としてあげられます。

シチズングループのCSR

コーポレートガバナンス

■ コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

シチズングループは「市民に愛され市民に貢献する」を企業理念に、地域社会はもとより、地球環境と調和した持続的な企業活動を通して企業価値を向上し、社会に貢献していくことをめざしています。この企業目的を継続的に追求していくために、経営の透明性確保と多面的な経営への監督機能が重要であると認識し、コーポレートガバナンスの強化に取り組んでいます。

■ 純粋持株会社と事業会社の役割

シチズングループは、シチズンホールディングスと各事業会社の責任と権限を明確化しています。シチズンホールディングスは、グループ経営の全体最適の観点から経営方針を策定するほか、事業統括会社を監督・統括しています。一方、それぞれの事業統括会社は業界特性を踏まえた自立的運営を行い、経営のスピードアップ、収益力強化を図っています。また、シチズンホールディングスのなかの、人事、財務、研究開発、知的財産管理、ブランド管理などの分野では、グループ横断的な戦略と事業統括会社の方針を合致させるようにしています。

■ 取締役・取締役会の役割

シチズンホールディングスの取締役会は、社外取締役2名（独立役員として東京証券取引所の制度に基づき届出しています）を含む9名で構成されています。（2010年3月31日現在）
取締役会は、シチズンホールディングスならびにシチズングループの経営方針やその他の重要事項を決定するとともに、取締役の職務の執行を監督しています。また、各事業統括会社のうちの主な子会社の社長も取締役（非常勤）として選任されており、事業統括会社の意見も取り入れた総合的な観点から、意思決定する仕組みとなっています。

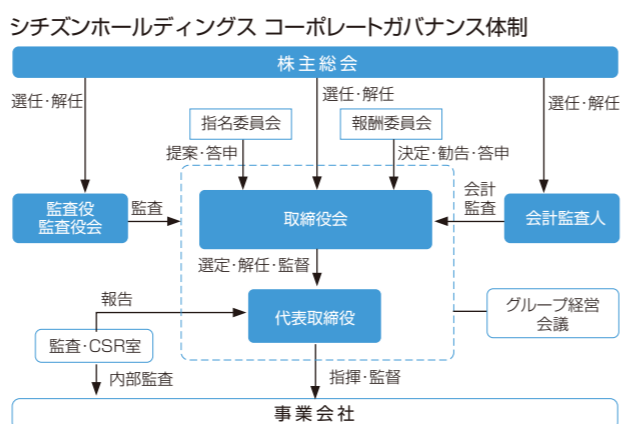
さらに、企業経営など豊富なビジネス経験をもつ社外取締役の意見をシチズングループの経営に反映しているほか、アドバイザーボードとして、社外取締役と社長で構成する指名委員会ならびに報酬委員会を設置しています。

■ 監査役・監査役会の役割

シチズンホールディングスの監査役会は、社外監査役2名を含む3名で構成されています。（2010年3月31日現在）

各監査役は、重要書類などの閲覧、業務および財産状況の調査、取締役会などの各会議体への出席を通じて、取締役の職務執行全般をチェックするほか、内部統制システムの整備運営状況を監査しています。

また、シチズンホールディングスおよび事業統括会社の間で整合性のとれた監査機能を発揮できるよう、シチズンホールディングスの常勤監査役と各事業統括会社などの常勤監査役で構成する「グループ常勤監査役連絡会」を開催し、シチズングループとしての監査方針を共有するよう努めています。



■ 内部統制システムについて

シチズンホールディングスでは「内部統制システム構築の基本方針」を定め、内部統制システムのさらなる充実に向けた取り組みを行っています。

2009年度は、内部統制システムが適切かつ有効に機能し、財務報告の信頼性が確保できるよう、シチズンホールディングスを中心としたグループ連結会社の担当者による、「シチズングループ内部統制連絡会」を開催し、外部監査機関とともに連携を図り、内部統制システムのより一層の整備・運用・評価を進めました。さらに、内部監査に期待されるさまざまなニーズに応えるために、事業統括会社の監査室および主要事業会社の内部監査担当者と連携しています。

外部機関からの評価

RMGによるコーポレートガバナンスのスコア

世界7,400社以上の企業のコーポレートガバナンスに関する評価を行い、機関投資家などにその情報を提供しているRiskMetrics Groupは、シチズンのコーポレートガバナンス・スコア(CGQ)が、日本企業の上位1.2%に位置すると評価しています。（2010年4月1日付）

より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。
シチズンホールディングス CSRの基盤
コーポレートガバナンス

コンプライアンス

■ コンプライアンス推進体制

推進にあたっては、シチズンホールディングスの「CSR委員会」がグループとしてのCSR活動の推進と、CSRに関する政策の立案・提言を統括的に行っています。グループ各社においては、各々が独自にCSR推進部門を設け、シチズンホールディングスと連携をとりながら、コンプライアンスの啓発活動や教育研修を含めて展開しています。各社がそれぞれ従業員の各職級にあわせた独自の教育体系に基づき、集合研修やビデオ研修を行っています。なお、グループ全社の対象者全員を一堂に集め、各々のタイミングで新入社員教育・新管理職研修・新取締役研修の一環として、CSR・コンプライアンス教育を行っています。

■ 知的財産管理体制

シチズンホールディングスでは、グループとしての知的財産方針を策定し、グループ知財管理体制を構築しています。これにより、第三者の知的財産権を侵害することがないように努めるとともに差別化技術やデザインの創出を促し、創出された知的財産を保護し、事業の自由度の確保と事業の拡大に努めています。

また、シチズンブランド維持のために、模倣品対策も積極的に実施しています。

■ 社内通報制度

シチズングループでは、法令違反ないし不正行為による不祥事の未然防止および早期発見、自浄作用の向上のため「企業倫理相談窓口」を設けています。「社内通報制度規程」では、通報者の秘密の厳守、被通報者の反論の機会、通報者に不利益な処遇がなされないことなどを定めています。2008年から外部通報窓口も設置し、匿名で通報できるようにするなど通報環境を整えました。なお、2009年度CSR意識調査では、70%近くの従業員が企業倫理相談窓口を知っていると回答し、また「企業倫理相談窓口を利用しますか?」の問いで、利用しない16%、わからない42%とあり、その理由として最も多かったのが「秘密厳守が保たれるか不安がある」でした。この結果を踏まえ、今後も継続して相談窓口の周知、信頼性を高めるための努力を行っていきます。

リスクマネジメント

■ リスクマネジメント体制

シチズングループは、事業活動に伴うさまざまなリスクを適切に管理するためにリスクマネジメント基本規程を制定し、併せてグループ内におけるリスクマネジメント推進体制を定めました。今回の決定に従い、今後CSR委員会が方針・施策の決定を行い、グループCSR推進委員会を通して、グループ各社への展開を行っていきます。

■ 安全保障貿易管理

シチズングループは、グループ内の安全保障貿易管理を確実に実行するため「シチズングループ安全保障貿易管理規則」を制定しています。主なグループ会社5社で構成する「シチズングループ安全保障貿易管理委員会」を設置し、グループ各社に対し指導・教育・情報の提供および監査などを行っています。また、コンプライアンス活動を推進するための組織として、日常的に輸出を行っているグループ会社14社からなる「輸出統括会社連絡会」を設けています。

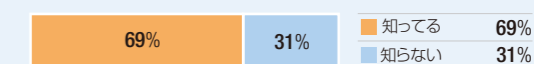
■ 情報セキュリティ

シチズングループは、さまざまな情報を適切・安全に運用し、社内外の脅威から情報を守るために「情報セキュリティ委員会」を設置しています。2009年度は、シチズングループ情報セキュリティポリシーの改訂を行うとともに、下部組織「情報セキュリティ推進委員会」を中心にUSBメモリーによる情報漏洩についての対策を議論しました。今後グループとしての統一指針を策定する予定です。また、2009年度はe-ラーニングによる情報セキュリティ講座と個人情報保護講座の開講を行いました。

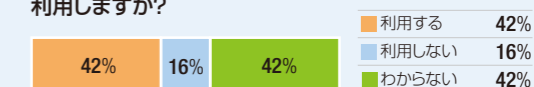
TOPICS CSR意識調査

シチズングループでは、CSR・企業倫理に関する認知状況を把握するために、2007年度から事業会社の従業員（派遣社員含む）を対象にCSR意識調査を行っています。

Q.1 あなたは企業倫理相談窓口を知っていますか?



Q.2 法令違反を見つけた場合、企業倫理相談窓口を利用しますか?



[回答者数] 2009年度:6,605名/9,031名(回答率73.1%)

より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。
シチズンホールディングス CSRの基盤
コンプライアンス/リスクマネジメント



お客様とシチズン

シチズングループでは、従業員一人ひとりがお客様満足の視点をもつことが何より重要であると考え、お客様満足のさらなる向上をめざし、すべての事業でお客様の声を活かした取り組みを継続しています。

お客様満足のさらなる向上のために

■ お客様満足の基本的な考え方

シチズングループでは、「顧客満足」を経営の基本とし、常にお客様の視点に立った製品・サービスの品質実現をめざし、お客様の声に耳を傾け、製品やサービスの開発や改善に役立っています。

■ シチズン時計の取り組み

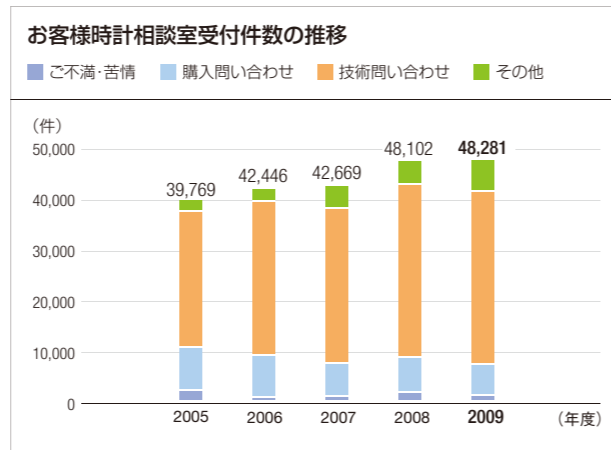
シチズン時計では、お客様満足のさらなる向上のために、品質・機能・デザインなどの商品力の向上に加え、アフターサービスを含めた総合的な品質の向上をめざし取り組んでいます。なかでもお客様との重要な接点であり、ご要望やご質問を直接承ることができる「お客様時計相談室」においては、お客様のさまざまなお問い合わせに対して、迅速かつ正確にお応えできる体制づくりを進めるとともに、お客様の声(VOC:Voice Of Customer)を活用できる仕組みの構築を検討しています。製品を正しく安全にお使いいただくために、見やすさ・読みやすさに留意した取扱説明書やマニュアルを作成するとともに、WEBサイトでは動画による操作ガイドを掲載しています。



お客様時計相談室での対応



動画による操作ガイド(ウェブサイト)



お客様の声を聞き、真意をつかんでスピーディに対応。そして、次のアクションに活かすことが大切

シチズン時計のお客様時計相談室は、お客様のお問い合わせにお応えする窓口機能だけでなく、お客様の真意をキャッチし、その裏にある潜在ニーズを引き出して商品づくりやサービスの改善に活かす重要な役割を担っています。

たとえば、お客様のさまざまなご使用環境とご使用方法により、思わぬ故障や不具合が生じた場合には、その原因をしつ

- CSセンターの方針
 - 1.お客様が満足する「顧客対応」の実現と確保
 - 2.お客様が満足する修理サービスの提供
 - 3.お客様が満足する「商品品質」の実現と確保
- シチズンお客様時計相談室のミッション(使命)

私たちは、お客様の声を真剣にお聞きし、誠意を持って対応します。

 - 1.お客様の期待を超える、予想外の驚きを提供します。
 - 2.お客様にとって必要な情報は素早く提供します。
 - 3.お客様の時計の修理は、早く、正確に、適正価格で行います。
 - 4.品質問題が発生した場合は、お客様のご不快・ご不便を最小限にする事を最優先します。同時に内部への情報発信を速やかに行います。

CSセンターミッション

かりと把握し、関連部門にフィードバックすることで品質向上に役立っています。

また、商品開発においては、これらの情報をもとに機能、デザインの改良はもとより、新しい付加価値をつくり出すための橋渡しをしています。

従業員全員がお客様の声に耳を傾け、お客様視点をもって仕事を進めるためにお客様の声の情報共有化をいま以上に進め、お客様満足度向上に努めていきます。



シチズン時計 CSセンター
お客様時計相談室 室長
松尾 次郎

■ シチズン電子のお客様満足度調査

シチズン電子では、ISOの品質方針に「品質第一を基本に、お客様の信頼と満足度の向上を目指します。」という項目を策定し、年2回「お客様満足度調査」を実施しています。調査内容は、「製品の信頼性」「納期」「問題解決サポート」など、詳細評価項目を14種類に分類。2010年2月に選定した20社を対象に調査を実施しました。前回調査と比べると全体評価が悪くなっていました。項目別で見ると「納期の正確さ」や「納期の早さ」の項目で、厳しいコメントをいただいております。これらは構造改革のための在庫削減や部材在庫削減の影響だと思われます。今後も「お客様満足度調査」を確実に実施し、お客様の声を社内にフィードバックし、各項目の対応力強化に活用していきたいと考えています。

VOICE

「顧客満足」から「顧客感動」へ

シチズンマシナリーでは、顧客満足経営を軸に「すべてはお客様のために」を徹底しています。工作機械をつくり始めた当初から「顧客満足」をめざし、常にお客様の視点に立ち、その思いやニーズをカタチにしてきました。顧客満足に到達点は無く、製品やサービスが100点でもお客様は満足してくれません。今、追求しているのは「顧客感動」です。期待以上の発見や喜びを提供し、感動価値を高めていく努力を進めています。



シチズンマシナリー
国内営業部 部長
伊奈 秀雄

VOICE

第三者監査への対応

シチズンファインテックミヨタでは、ものづくりを進める上で、お客様の声を重視しています。クレームは結果であり、その前段階でのお客様とのコミュニケーションにより品質向上を図ることが肝要です。その一手段として第三者監査を重要視しています。第



シチズンファインテックミヨタ
システム管理室 マネージャー
小林 慎一

二者監査はお客様が自ら私たちの会社に足を運び、品質のプロ目目で私たちの工程を見て、改善ポイントを指摘してくださるものです。このような貴重な機会を全社に共有化することを推進しています。

2009年度は書類審査を含め第三者監査が20回あり、改善指摘事項はあったものの、すべて合格しました。月一回の品質向上会議でその実施内容、改善指摘事項およびその対応内容を報告し、他部門がその内容を理解し、今後の自部門での対応の良き事例としてとらえることを進めて、つくり込み品質の向上をめざした活動に力を入れています。



株主・投資家とシチズン

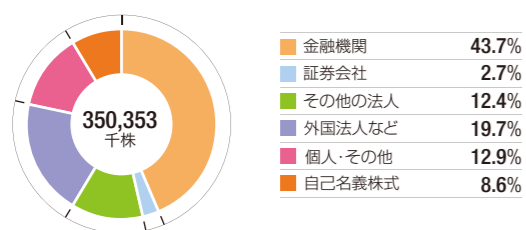
シチズンホールディングスでは、株主・投資家の皆様との日々の対話が企業価値にふさわしい株価形成につながると考え、株主・投資家の意思決定に必要な信頼性の高い情報を適時・適切に開示するよう努めています。IR活動では、株主・投資家とのコミュニケーションの機会を増やすとともに、その内容の充実にも積極的に取り組んでいます。

利益還元方針

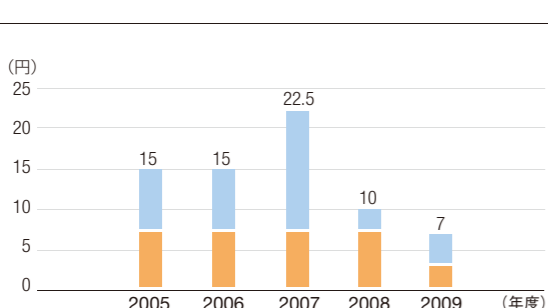
シチズンホールディングスは、配当および自己株式取得の合計額の、連結当期純利益に対する比率を「株主還元性向」ととらえております。この方針を定めた2005年度以降、3年～5年の期間で比率を平均30%以上とすることをめざしています。配当につきましては、連結業績との運動と安定配当のバランスを勘案し決定しています。

所有者別株式分布(円グラフ)

(2010年3月31日現在)



1株あたり配当金の推移



開かれた株主総会

シチズンホールディングスは、より多くの株主の皆様にご定時株主総会に出席していただけるよう、集中日を避け、収容人数や交通アクセスに配慮して会場を決定しています。

また、2007年の総会からは、議決権を行使しやすいよう、機関投資家向け議決権電子行使プラットフォームの利用を可能にするなど、意見や質問をいただきやすい仕組みづくり、スムーズな運営を心がけています。

インサイダー取引の防止

シチズングループは、インサイダー取引を未然に防ぐための規則の制定・変更などの必要な手続きを随時実施しています。シチズンホールディングスと国内連結子会社各社では、各社役員と重要事実を扱う可能性が高い社員による売買を許可制としています。また、社内での講習会やe-ラーニングなどで役職員の理解を深め、実効性の確保に努めています。

外部機関からの評価

シチズンホールディングスは、2004年から6年連続で、ベルギーのSRI(社会的責任投資)評価機関であるエティベル社の「エティベル・サステナビリティ・インデックス」に選ばれています。



お取引先とシチズン

シチズングループは、「シチズングループ企業行動憲章」および「国連グローバル・コンパクト」の精神に基づき、法令遵守や環境・人権への配慮など、CSRを積極的に推進するお取引先と強固なパートナーシップを構築したいと考えています。

購買の基本的な考え方

■ お取引先との相互信頼関係構築をめざして

シチズングループはお取引先との関係を重要視して、常に良好な関係を築くべく努力するとともに、相互に切磋琢磨しながら成長するビジネスパートナーでありたいと願っています。そのため、シチズングループ各社では、お取引先との日常的な対話を通じて自社の方針をお伝えするとともに、お取引先からは購入資材の市場動向・品質・価格・デリバリーに関する改善提案をいただき、双方が共通の認識に立った資材購買取引ができる環境づくりに取り組んでいます。

下請取引適正化委員会

「シチズングループ下請取引適正化委員会」では、2009年度の下請法遵守の取り組みとして、「下請法、知って、守って、築く会社の信用」をキャッチフレーズに教育と監査を重点に活動しました。教育では、基礎編で知ってを、実務編で守ってを、意識して行い、グループ全体で延べ370名が受講しました。監査では、当委員会による内部監査と自社組織による自主監査を行いました。今後もグループ会社と連携をとりながら、地道な遵守活動を行ってまいります。

VOICE お取引先とともに発展・成長するために

シチズン電子では、より良い製品をつくるためにビジネスパートナーであるお取引先とともに発展・成長することをめざしています。資材・サービスの調達活動にあたっては、各種法令の遵守とともに、お取引先とのより公正で透明な取引と相互信頼関係の構築を進めています。

法令遵守の観点からは、近年とくに重要視されている下請取引の適正化を目的とし、下請事業者苦情相談窓口を設置し、下請事業者の方々が気兼ねなく取引についての相談をすることが可能な体制を整えています。

グリーン調達への配慮としては、世界各国の法令に準拠したグリーン調達規程についてお取引先にも理解を求め、それらに沿った部材調達を推進しています。

また、自然災害や大きな事故などが発生した際には、お取引先の安否や生産活動への影響をいち早く察知するよう努めています。

このような活動により、安心・安定した部材供給を実現し、顧客満足や社会貢献の向上につなげていきたいと考えています。



シチズン電子 生産本部 資材部 ジェネラルマネージャー 梶原 司



従業員とシチズン

シチズングループでは従業員一人ひとりが自分の力を存分に発揮できる環境をつくるのが経営の責務であると考え、グループ各社で人材育成の取り組みを進めています。また従業員一人ひとりの多様性を認め、安全に、安心して働くことができる環境をつくるための各種制度を積極的に導入しています。

多様性の尊重

採用活動

シチズングループ各社は中長期的視野に立った定期的な新卒採用や即戦力としてのキャリア採用を実施しています。また、有期雇用の契約社員を本人のやる気や能力などにより、正社員へ登用する制度を導入しています。雇用にあたっては、一人ひとりの能力・適性・意欲を重視して、機会の均等と多様性の確保に努めています。

新卒採用状況(グループ主要16社)

	2008年度	2009年度
男	91名	100名
女	32名	34名
計	123名	134名

中途採用状況(グループ主要16社)

	2008年度	2009年度
男	51名	14名
女	10名	11名
計	61名	25名

障がい者雇用の促進

「ともに働く」を基本方針に、障がい者雇用に積極的に取り組んでいます。シチズングループ主要16社の2009年度の雇用率は、法令に基づく届出(6月1日現在)では法定雇用率を下回っていますが今後も雇用拡大、職域拡大に努めていきます。

障がい者雇用状況(グループ主要16社)

	2008年度	2009年度
雇用率	1.58%	1.69%

※2009年6月1日現在雇用率

TOPICS

円滑なコミュニケーション実現のために

シチズン電子では、障がい者の方々が安全に働ける環境づくり、円滑なコミュニケーション実現のためさまざまな工夫をしています。たとえば聴覚障がい者のいる職場では、利用頻度の高い手話をまとめた手帳の配布、呼び出し時のランプの設置などによりコミュニケーションの工夫を図りました。障がい者の就労意欲の高まり、職場内の障がい者に対する意識啓発につながりました。

また、全国障がい者スポーツ大会に、山梨県代表としてシチズン電子の小佐野章が2大会連続出場し、2009年大会では陸上2競技(砲丸投げ:15m52cm=大会新記録、走幅跳び:4m71cm)で優勝しました。

日々のコミュニケーションで不自由に感じることは多くありません。何事にも明るく積極的に、相手に対して思いやりの心を忘れずにいることを心がけています。障がいをもって働くことに関しても

ハンディを背負うという気持ちはありません。むしろ私はいつも前向きにすべてのことに後悔のないよう最善の努力をしています。今回の全国障がい者スポーツ大会トキメキ新潟大会での結果も日々の練習に前向きに励んだことが良い結果につながったのだと思います。



シチズン電子
生産本部 生産部
小佐野 章

人材の育成

人材育成プログラム

シチズングループ各社で展開する人材育成を基本とし、シチズンホールディングスが主催するグループ階層別教育と組み合わせ、事業環境に適應できる人材育成をめざしています。シチズンホールディングスはグループ全体の視点から、グループの新入社員・新管理職・新任役員向けの階層別教育を実施しています。

また、シチズンホールディングス、シチズン時計などでは国家資格・公的資格などの取得者に奨励金を支給する「シチズンビジネスライセンス制度」により、従業員が自己啓発する風土づくりを進めています。

ワークライフバランスの推進

働きやすい環境をつくるための各種制度

シチズングループ各社では、職場の実情にあった勤務体系の弾力的な運用など、従業員が各種制度を取得しやすい環境づくりに取り組んでいます。

シチズンホールディングス、シチズン時計などでは、育児に関わる就業時間の短縮期間は小学校3学年修了まであり、介護に関しては、就業時間の短縮を2時間としています。また、プール休暇の使用法として、子の看護を含む子育て支援に関する制度を中学校就学修了までに延長し、柔軟な働き方を促進しています。

育児休職制度・介護休職制度利用状況(グループ主要16社)

	2009年度	男	女	計
育児休職制度利用状況	0名	57名	57名	57名
介護休職制度利用状況	0名	3名	3名	3名

安全・安心に働きやすい職場づくり

東京事業所の安全活動

東京事業所では、安全衛生委員会を中心に従業員の安全確保のための施策を検討し、具体的な行動計画を作成しています。

安全活動の基本は、職場での危険要因の先取り解決を図ること、および従業員各自が危険を察知して回避する行動ができるようになることです。設備安全専門審査会による安全審査を実施して本質安全化を図るとともに、その検証を行っています。同時に、従業員自身が危険要因に気づいて対処で

きるように、RST(労働省方式セーフティトレーニング)、KYT(危険予知トレーニング)などを行っています。

災害発生状況(グループ主要17社)

	2008年度	2009年度
死亡事故数	0件	0件
休業事故数	3件	10件

健康増進への取り組み

シチズン健康保険組合は従業員とそれを支える家族も含めての健康保持増進に向けて事業運営に取り組んでいます。

健康保険組合として2008年度から特定健診・特定保健指導に取り組み、各事業所の協力を得てメタボリック症候群の該当者を対象とし保健指導を実施しました。保健指導実施者については翌年の健診改善が見られたものの、未実施者では悪化傾向が見られ、今後の課題となっています。

特定健診および特定保健指導実施状況(グループ主要22社)

	2008年度	2009年度
特定健診率(本人+家族)	77.2%	71.4%
メタボリック症候群該当率	10.4%	10.8%
メタボリック症候群予備群該当率	10.4%	12.1%
特定保健指導実施率	66.9%	31.3%

VOICE

新型インフルエンザへの対応

東京事業所内に対策本部を立ち上げ対応しました。従業員の感染予防対策として、マスクの着用、手洗い・うがいの喚起、体温計の配布、行動マニュアルの作成、社内ポスターの掲示や、安全衛生委員会・社内報・イントラネットでの情報提供、また国内外の拠点との情報交換などを実施しました。感染した従業員に対しては、7日間の自宅待機とともに、会議の同席者など一定の濃厚接触者にも待機やマスクの着用での対応を行いました。

これにより各従業員の啓発につながり、感染した従業員も大事に至ることはなく、社内外の感染拡大防止に努めることができました。今後、強毒性への変異も想定されるため、より一層の危機管理体制の拡充をめざしていきたいと思えます。



シチズンビジネスエキスパート
田無業務室 診療所 保健師
瀬谷 基子



地域社会とシチズン

シチズングループは、シチズングループ企業行動憲章第5条に「良き企業市民として、地域社会との共生を大切に、社会貢献活動に努めます」と謳っています。社会の一員として、社会に役立つ事業活動を行い、グループ各社が関わりをもち、地域社会とのつながりを大切に、地域の活性化に協力していきます。

教育

Education

実業団選手による卓球教室の開催

国内で多数の実績を挙げているシチズン卓球部は、全国各地で卓球教室、卓球講習会を開催しています。子供たちが楽しみながら参加できる教室を企画し、「始めたときよりも上手くなりました。」「スマッシュが打てるようになりました。」などの喜びの声が寄せられました。2009年度は合計27回実施し、1,910人の方々に参加していただきました。



岩手大学大学院 金型塾へ講師を派遣

シチズン東北では、ものづくりの基本となる金型技術の講師として熟練社員を岩手大学大学院金型工学専攻科へ派遣し、地域の高度技術者の育成支援を行っています。

ものづくりの楽しさを伝える活動

シチズングループ各社では、ものづくりに挑戦する次世代を育成するために、工場見学や職場体験学習、インターンシップの積極的な受け入れを行っています。2009年度、シチズン東北では37団体928名の方々に参加していただきました。



親子体験学習開催

長野県飯田市教育委員会とシチズン平和時計の共催でスーパーサイエンス推進事業・親子体験講座「未来のマイスターは君だ!」が開催され、15組30名の親子を対象に、絵本を使って会社の概要や取り組みを紹介しました。時計についての学習後、体験学習として親子でバンド付けと電池交換の作業を行いました。はじめての体験で少し苦労しながらも動きはじめた時計を眺め、満面の笑みを浮かべた参加者の皆さんの姿が印象的でした。



福祉

Welfare



東京都新宿区でのボランティア活動

シチズンプラザでは、電力協会ユーザー会ボランティアの一環として、ひとり親家族の方々を招待し、親子揃ってのボウリングやアイススケート、製氷車から出る氷での雪だるまづくりなどの場を提供し、参加された方々に親子の楽しい思い出をもち帰っていただきました。

プルタブ回収活動

シチズン電子船引では、地元小学校で行ってる、プルタブを車椅子と交換する活動に毎年協力しています。今年で8年目となり、延べ170kgを寄付しました。プルタブ600kgで車椅子1台に換算しますので、少しでも役に立てるよう継続した活動を行っていきたく思います。



環境

Environment

生物多様性の保全

絶滅危惧I類に指定されているオオルリシジミの生息地のひとつであるシチズンファインテックミヨタ北御牧事業所では、2003年より地域の「オオルリシジミを守る会」の一員として、絶滅を防ぐためにオオルリシジミの食草である豆科の植物「クララ」を構内に110株移植し、天敵のメイガの防除などを行いながら食草の保護、増殖を行っています。



そらべあ基金

シチズン時計では、エコドライブ製品の売上金の一部を「そらべあ基金」に寄付し、共同で幼稚園や保育園への太陽光発電の設置を応援しています。



WEB シチズン時計 腕時計サイト
<http://citizen.jp/eco-drive/solarbear/index.html>



「100万本植樹運動」に参加

シチズン電子は、毎年、山梨県と財団法人山梨県緑化推進機構が主催する「100万本植樹運動」に参加しています。これは、21世紀のモデルとなるような森林をつくりあげていこうという、地域、ボランティアによる植樹活動です。2009年度は、5月に富士吉田市の山林で行われた植樹活動に、新入社員を含む従業員が参加し、ヒノキを植樹しました。

富士山クリーン作戦に参加

富士山周辺に事業所をおくシチズン電子、シチズンセイミツでは、「富士山をきれいにする会」が主催する「富士山クリーン作戦」に毎年参加しています。2009年度は8月に役員をはじめとする約100名が参加し、富士山5合目周辺の清掃活動を行いました。



海外

Overseas

インドでの植樹活動

CITIZEN WATCH INDIAでは、世界環境デーにあたる2009年6月5日に、インド全土で販売された「Eco-Drive」の腕時計と同数の苗木をバンガロールにあるK.R.Puramに植樹しました。



Aldeas Infantiles SOS Panamaへのスポンサー

CITIZEN LATINAMERICAでは孤児院を運営している団体Aldeas Infantiles SOS Panamaの孤児院運営、子供支援活動にUS\$4,000を寄付。団体からはamigo:友達と呼ばれ、ともに地域を支える仲間と位置づけられています。



視覚障がい者用腕時計を寄贈

CITIZEN LATINAMERICAでは、パナマ盲人協会への視覚障がい者用腕時計の寄贈を行っています。



インターンシップの積極的な受け入れ

CITIZEN MACHINERY EUROPEでは、1~4年間に及ぶさまざまな研修プログラムを提供しています。シンコム製品の「機械操作」、人事や営業に関わる「実務」から「国際ビジネス経営アシスタント」に至るまで、国内外から幅広い人材のビジネス研修生を積極的に受け入れています。





シチズングループの環境経営

シチズングループでは、2003年から環境配慮型製品100%をめざした活動を行い、グリーン調達にも取り組みました。環境配慮型製品をほぼ100%とすることができたことで、グループ環境方針を改訂し、新たな取り組みを開始します。

環境社会ビジョンと環境方針

シチズン環境社会ビジョン(2025)

シチズンは「市民に愛され市民に貢献する」という理念に基づき、人々が心豊かに安心して暮らせる持続可能な市民社会に貢献します。シチズンは“一番近くで”地球と人にやさしい製品をお届けします。

2004年7月20日策定
2007年4月1日改訂

2009年度目標と実績

○：達成 ×：未達成

2009年度目標	2009年度実績	評価	参照
1.環境配慮型製品の充実			
新規モデル環境配慮型製品率 100%合格のシステム維持	電子機器製品群で100%、 時計製品群で100%	○	P29
スーパー環境配慮型製品の開発	評価基準設定まで完了。 企画・開発まで至らず。	×	
EuP指令への対応準備	情報収集は随時継続中。 具体的な対応活動まで至らず。	×	
REACH規則に対応した製品含有 化学物質の管理システム構築	REACH規則に対応した 管理システムの導入	○	
2.環境にやさしい事業活動			
各部門1テーマ以上実施 (東京/所沢)	(東京:27部門)87テーマ実施 (所沢:9部門)33テーマ実施	○	—
3.地球温暖化ガスの削減			
(東京)CO ₂ 排出量削減 1999年度比▲50%(11,900t-CO ₂)	1999年度比▲58% (9,997t-CO ₂)	○	P28
(所沢)CO ₂ 排出量削減 1999年度比▲17%(10,080t-CO ₂)	1999年度比▲19% (9,814t-CO ₂)	○	
(グループ)CO ₂ 排出量削減 2008年度比▲1%(売上高原単位)	2008年度比10% (売上高原単位)	×	
4.廃棄物削減活動の推進			
(東京)産業廃棄物の削減 維持管理	1999年度比▲79%(116t)	○	P28
(所沢)産業廃棄物の削減 維持管理	1999年度比▲52%(82t)	○	
(グループ)廃棄物削減 2008年度比▲1%(売上高原単位)	2008年度比 4%(売上高原単位)	×	
(グループ)再資源化率 99%	99%	○	

シチズングループはシチズン環境社会ビジョン(2025)に基づき、シチズングループ環境方針を改訂しました。グループ各社の心をあわせたいという想いから、「小さいは、エコになる。」という“スローガン”を設けました。

シチズングループはこれまで小型精密技術を軸にして生産性向上を進めてきました。これを“環境の目”で見ますと、「生産性向上=環境負荷削減=利益創出」となります。つまり、省スペース・省資源・省エネルギーという環境価値に置き換えることができます。私たちは、日々のものづくりのなかですでに環境活動を十分に行っていることに気づきました。「小さいは、エコになる。」のスローガンのもとに、「小さくすること」までできているものづくりに“環境の目”をさらに加えて、「エコになる。」を見出して、シチズングループの環境価値としたいと考えています。

シチズングループ環境方針

スローガン 「小さいは、エコになる。」

- ダウン・サイジングの実施**
生産革新/技術革新により環境負荷を削減し、利益創出およびCO₂削減を実現する。
- 環境配慮型製品の新しい環境価値の創出**
製品または部品の新たな環境配慮内容の発掘
- 環境リスクの低減**
グローバル環境法規制への対応、REACH規則、米国規制、中国規制など
- 環境社会貢献活動による地域社会とのコミュニケーション強化**

2010年4月1日改訂



より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。
シチズンホールディングス「CSR」環境とシチズン」
環境社会ビジョンと環境方針

環境マネジメント

■ 環境経営推進体制

シチズングループは、効率的かつ的確に環境経営を推進するため、グループ横断の環境管理体制を構築しています。年2回、国内18社の環境担当責任者が集まって「グループ環境管理委員会」を開催し、各社の活動状況を把握するとともに、年度の環境方針、共通課題を検討・決定しています。

国内27の生産会社は、ISO14001の認証を取得しており、各社で業態の特徴を出した環境管理活動を推進しています。

海外の生産会社は、環境配慮型製品を製造する上で重要となるグリーン調達や、化学物質管理に重点を置いた活動を展開しながら、順次ISO14001の認証取得を進めています。また、非生産業務に携わる会社は、各社の特徴にあわせた環境負荷低減活動を行っています。

■ 環境監査と環境教育

東京事業所および所沢事業所では、年1回のISO審査機関による外部監査と、原則年2回の内部監査を実施しています。

環境教育は、内部監査員として必要なスキルを身につけるための「内部環境監査員養成教育」や、各部門の環境実務担当者を対象にした「環境担当者教育」、「環境法令遵守評価教育」を年1回実施しています。

環境教育の成果は、受講者へのアンケートや、実際の内部監査において確認し、必要に応じてフィードバックを行っています。

事業活動と環境負荷

グループ全体のエネルギー・化学物質などの投入量、CO₂や廃棄物などの排出量を的確に把握し、計画的な環境負荷低減活動に活かしています。

INPUT		シチズングループの事業活動		OUTPUT	
総エネルギー使用量(GJ)	国内 2,098,796 海外 831,845	▶	シチズングループの事業活動	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	国内 83,779 海外 31,737
水使用量(千m ³)	国内 1,589 海外 1,504			BOD排出量(t)	国内 34 海外 16
水の循環的利用量(千m ³)	国内 521 海外 11			NOx排出量(t)	国内 6 海外 3
化学物質使用量(t)	国内 520 海外 2,048			SOx排出量(t)	国内 4 海外 4
容器包装材使用量(t)	国内 654 海外 804			排水量(千m ³)	国内 1,291 海外 1,020
				排出物量(t)	国内 5,370 海外 2,276
				埋立量(t)	国内 34 海外 1,634

[INPUT] [OUTPUT]データには、「物流・販売」「使用」「資材調達」段階の環境負荷は含まれていません
対象期間:2009年4月1日~2010年3月31日 集計範囲:国内18社、海外9社

事例紹介

シチズン東北 相馬事業所の土壌汚染対策

シチズン東北相馬事業所では、過去に使用していた金属用洗剤(揮発性有機化合物VOCs)による土壌・地下水汚染が自主調査で確認され、自主的対策として地下水流域への汚染された地下水の拡散防止策工事を2009年12月に施工しました。鋼矢板を地下6.5mの泥岩部分まで打設し、遮水壁を3カ所(水平距離45m)設置し、遮水壁間にはバイオレメディエーション※により自然分解を促進させるための栄養剤を注入するEDC工法を同時に施工し、地下水の流れを完全には止めず、かつ汚染土の掘削除去を行わない現位置浄化を施しました。施工後のモニタリングでは確実にVOCsの分解が確認できており、今後も浄化効果確認の定期モニタリングを行い、行政への定期報告を継続します。



※バイオレメディエーションとは、微生物を用いて汚染物質を分解する土壌浄化技術
土壌浄化工事

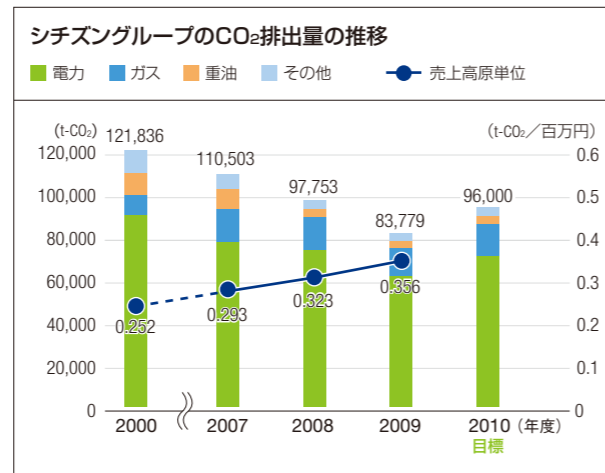
地球温暖化ガスの削減

地球温暖化ガスの排出量削減

シチズングループではCO₂排出削減を効率的かつ着実に進めるため、「エネルギー削減分科会」を設置し、各事業所の事例を発表しあって、互いに有効な活動を取り入れながら省エネ活動に努めています。

2009年度は、グループ全体のCO₂排出量を「売上高原単位で2008年度比1%削減」「総量2008年度比1,500トン削減」という目標に対し、経済の悪化のため総量では約14,000トンの大幅な減少となりました。逆に売上高原単位ではプラス約10%の0.356となりました。

このように原単位分母が売上高では、どれだけ効率よく負荷が減ったか有効な指標にはなっていないのが実情でした。そこで今後は総量削減をめざしていきたいと考えています。



より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。
シチズンホールディングス「CSR」環境とシチズン」
地球温暖化ガスの削減

資源の有効活用と廃棄物の削減

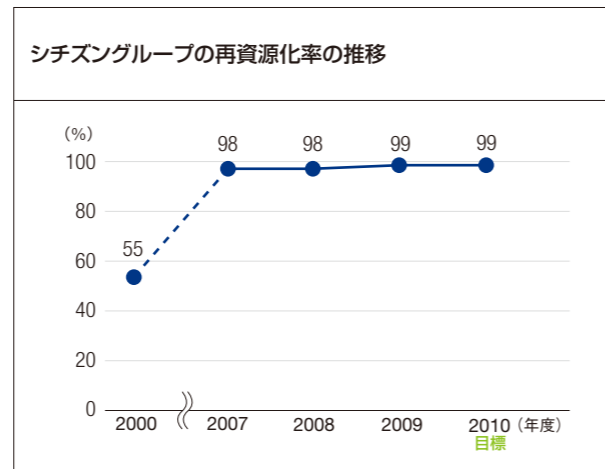
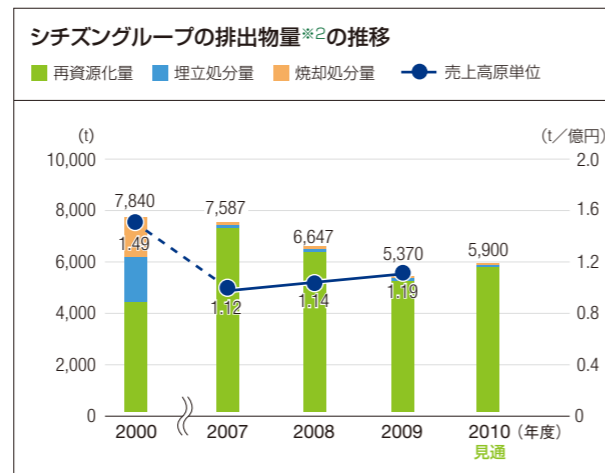
廃棄物削減活動の推進

循環型社会の形成に寄与するため、廃棄物となるごみをゼロにする活動に取り組んでいます。2009年度は、グループ全体で「廃棄物量を売上高原単位2008年度比1%削減」、「再資源化率99%」を目標に活動しました。

その結果、グループ全体で再資源化率は99%となりました。国内では16事業所がごみゼロ(再資源化率99%以上)を達成しました。廃棄物の削減については、経済環境のため廃棄物総量^{※1}で約660トン減少し、売上高原単位ではプラス4%の1.19となりました。原単位管理は、2007年度以降どれだけ効率良く負荷が減ったか有効な指標にはなくなり、また削減に対しては下げ止まりの状態になってきています。2010年度は、グループ全体で再資源化率99%以上(ごみゼロ達成)の維持を目標としていきます。

※1:廃棄物総量=産業廃棄物量+一般廃棄物量
※2:排出物量=産業廃棄物量+一般廃棄物量+有価物量

より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。
シチズンホールディングス「CSR」環境とシチズン」
資源の有効活用と廃棄物の削減



有害化学物質の削減

有害化学物質の使用量の削減

シチズングループでは、2003年度より塩素系有機溶剤や代替フロン(HCFC類)の使用量削減に取り組み、2008年に全廃しました。なお、2009年度のシチズングループ全体のPRTR物質の届出状況は下表のようになりました。届出物質の数は4物質で、取り扱い量は2008年度より8トン減少し約33トンになりました。また、排出・移動量は2004年度の258トンから2009年度は22トンへと92%減少しました。

PRTR物質の排出量・移動量(2009年度) (t)

化学物質名	取扱量	排出量				移動量	
		大気への排出	公共用水域への排出	事業所における土壌への排出	事業所における埋立処分	下水道への移動	事業所外への移動
キシレン	13.8	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7
ニッケル化合物	9.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.2
フッ化水素及びその水溶性塩	8.2	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	6.1
無機シアン化合物	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	32.6	2.6	0.5	0.0	0.0	0.0	19.0

より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。
シチズンホールディングス「CSR」環境とシチズン」
有害化学物質の削減

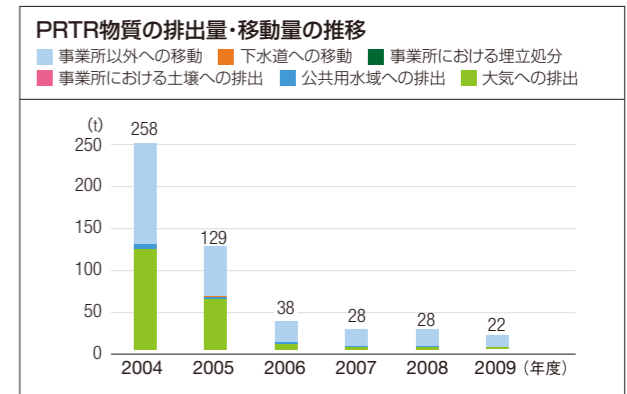
環境配慮型製品の充実

環境配慮型製品の拡大への取り組み

シチズングループでは、「環境配慮型製品」への取り組みを進めています。開発段階から多項目の製品アセスメント(評価)を実施し、「省資源・省エネルギー」「再資源化(リユース・リサイクル)」「長期使用性」「環境保全性(有害化学物質管理)」「環境情報の提供」「包装材」などの評価基準を、すべて満たした製品を環境配慮型製品に認定しています。2008年度から、さらに厳しい視点でアセスメントを実施する「スーパー環境配慮型製品」の評価基準を設けて、取り組みを進めています。また、ヨーロッパのEuP指令への対応については、具体的な取り組みができるところまで、規制の内容がはっきりしてきましたので今後対応を進めています。

なおREACH規則への対応については、管理システムを導入し、化学物質管理を実施しています。

より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。
シチズンホールディングス「CSR」環境とシチズン」
環境配慮型製品の充実



中国工場COD除去装置の稼働

シチズンセイミツの子会社であるWALOP中国工場では時計部品・HDD用ガラス・液晶部品などの製造を行っており、メッキ・研磨・洗浄工程などからの排水を処理しています。中国での排水基準は年々厳しくなり、2008年度の法改正によりCOD(化学的酸素要求量)が法規制を逸脱する恐れがありました。

法改正に対応するためには従来の沈殿式の除去施設では限界があり、化学処理式のCOD除去施設を増強し、法規制値90ppmを遵守することが出来ました。

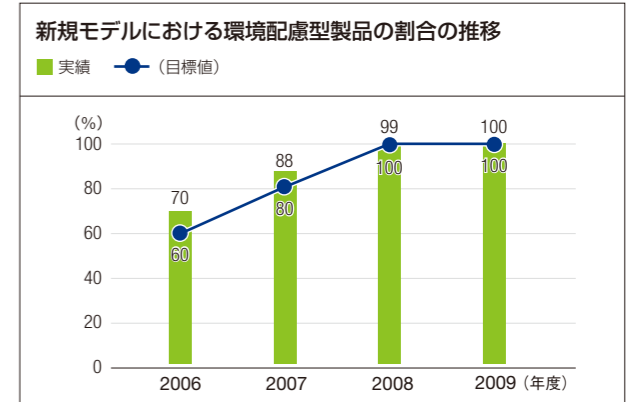
2009年度には地域の排水処理を設けている企業30社のなかで優良な企業BEST3に選ばれました。



化学処理式COD除去施設

環境配慮型製品の割合の推移

シチズングループでは、新規モデルに占める環境配慮型製品の割合を2008年度中に100%にすることを目標に取り組みできました。本格的に取り組みをスタートさせた2005年度以来増加し、2009年度はほぼ100%の実績となりました。



CSR報告書は、CSRへの取り組み状況の報告だけでなく、企業理念の実現のための計画、実行、検証、改善と理念の再確認という一連の取組み(PDCA)に対するコミットメントの発信ともいえます。本年も、そのような視点から意見を述べたいと思います。

株式会社インテグレックス
代表取締役社長
秋山 をね氏



1 評価したい点

グループとして、事業活動のすべてで「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念の実現のために、全員参加で取組みを進めるといった変わらない姿勢は高く評価できます。

毎年、企業行動憲章の項目に沿ってCSR活動の目標を設定し、各社で取組みを行っていますが、本年は、報告書に掲載されている「CSR目標と取組み状況」の表がより充実し、「活動目標」と「取組み状況」に加え、取組みに対する「評価」、「今後の取組み・課題」と具体的な取組みについての「掲載ページ」が記載され、PDCAを廻しながら着実に活動を進めていることがわかり、評価できます。

特集の「シチズン・オブ・ザ・イヤー20周年」は、地道な市民活動に光を当てているところにシチズンらしさを感じるとともに、それを20年継続していることが、まさに企業理念の具現化のひとつであると感じ、印象的でした。

具体的な取組みについては、たとえば、「CSRの基盤」の社内通報制度に関して、外部通報窓口の設置など、通報環境を整えるだけでなく、「CSR意識調査」によって、従業員の窓口の認知度や利用意向、制度の課題などを検証して今後の改善につなげたり、「お客様とシチズン」での定期的な「お客様満足度調査」の実施や、さまざまな事業でお客様の声を活かそうとする取組みなど、ステークホルダーからのチェックを受けながら取組みを改善していこうという姿勢が感じられます。

「環境経営」では、昨年に続き、今年度の目標、実績、評価が示され、PDCAを回しながら継続的に取り組んでいることがわかります。また、環境方針の改訂により、「小さいは、エコになる。」というスローガンとともに、小型精密技術というグループの軸に焦点が当たり、従業員一人ひとりにとって、「仕事」と「環境」がより密接に結びついたのではないかと感じます。

2 今後に期待したい点

海外での課題や取組みについて、「グループCSR活動状況調査を実施した結果に基づき、海外でのCSR活動が遅れていることもあり、2010年度の最優先課題として取組みます」という記述があります。グループのCSR活動状況調査というチェックを実施し、課題を把握したことは評価できますが、売上、従業員数とも6割近くが海外というグローバル企業として、リスクマネジメントの観点からも、海外での迅速な取組みの展開が期待されます。

「従業員とシチズン」については、「全員参加型CSR」の担い手としての従業員が、力を発揮できる環境をつくるための取組みが紹介されており、取組みや制度自体は評価できますが、制度などの紹介だけでなく、それらがどのように利用され、従業員の誇りややりがいに結びついているか、従業員の「声」をより多く掲載するなど、取組みの成果についての、より突っ込んだ検証が欲しいところです。

3 未来に向けて

今や、CSRのSは、社会(Social)のSから持続可能性(Sustainability)のSへ、Rは、責任(Responsibility)から尊重(Respect、あるべき姿、ありたい姿の尊重)へと進化してきています。これからも、「市民に愛され市民に貢献する」企業として、世界をリードする「Micro HumanTech」を活かし、全員参加で、地球と人の豊かな未来に貢献するものづくりを続けられることを期待します。

冊子・WEB掲載内容一覧

シチズングループのCSR活動の全容をご理解いただくために、冊子で報告しきれなかった取組みをWEBサイトで、網羅的に報告しています。



▶ <http://www.citizen.co.jp/social/index.html>

◎はより詳細を掲載している項目

分類	章タイトル	項目	WEB版	冊子版	ページ	分類	章タイトル	項目	WEB版	冊子版	ページ
	トップメッセージ		○	○	P4-5	社会とシチズン	従業員とシチズン	人材の育成			
	シチズングループについて	会社概要	○	○	P6-7			・グループ方針	○		
		シチズンの製品・技術はこんなところに使われています	○	○	P8-9			・人材育成プログラム	○	○	P23
特集		○	○	P10-13	・グループ各社の取組み			○			
CSRの基盤	シチズングループのCSR	シチズングループ企業行動憲章	○	○	P14			ワークライフバランスの推進			
		ステークホルダーとの関わり	○					・グループ方針	○		
		CSR推進体制	◎	○	P14			・働きやすい環境をつくるための各種制度	○	○	P23
		CSR活動の目標と取組み状況	○	○	P15			安全・安心に働きやすい職場づくり			
		CSR活動のあゆみ	○					・安全活動	○	○	P23
	コーポレートガバナンス	コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方	○	○				・健康増進への取組み	○	○	
		取締役・取締役会の役割	○	○	P16		・グループ各社の取組み	○			
		監査役・監査役会の役割	○	○			・人権と労使関係	○			
		内部統制システムについて	○	○			社会貢献活動の基本方針	○			
		外部機関からの評価	○	○		社会貢献活動	◎	○	P24-25		
コンプライアンス	コンプライアンス	コンプライアンス推進体制	○	○	P17	シチズン・オブ・ザ・イヤー	◎	○	P12-13		
		知的財産管理体制	◎	○		シチズン環境社会ビジョン(2025)	○	○			
		社内通報制度	○	○		環境方針	○	○	P26		
リスクマネジメント	リスクマネジメント	グループ各社の取組み	○			2009年度目標と実績	○	○			
		リスクマネジメント体制	○	○	P17	環境マネジメント	環境経営推進体制	○	○	P27	
		安全保障貿易管理	○	○			環境教育と啓発活動	◎	○		
		情報セキュリティ	○	○			環境監査	○	○		
社会とシチズン	お客様とシチズン	防火・防災の取組み	○			環境リスクマネジメント	○	○			
		グループ各社の取組み	○			ISO14001認証取得状況	○				
	株主・投資家とシチズン	株主・投資家とシチズン	事業活動と環境負荷	○			事業活動と環境負荷	◎	○	P27	
			グループ各社の取組み	○			グループ会社の環境負荷状況	○			
			利益還元方針	○	○	P20	環境会計	○			
			情報開示とIR活動	○			地球温暖化ガスの削減	○	○	P28	
	お取引先とシチズン	お取引先とシチズン	開かれた株主総会	○	○		地球温暖化ガスの削減	○	○		
			インサイダー取引の防止	○	○	P20	資源の有効活用と廃棄物の削減	○	○	P28	
			外部機関からの評価	○	○		廃棄物削減活動の推進	○	○		
	従業員とシチズン	従業員とシチズン	購買の基本的な考え方	○	○		グループ各社の取組み	○			
下請取引適正化委員会			○	○	P21	有害化学物質の削減	○	○	P29		
グループ各社の取組み			◎	○		有害化学物質の削減	○	○			
社会とシチズン	従業員とシチズン	多様性の尊重				環境配慮型製品の充実	環境配慮型製品の拡大への取組み	○	○	P29	
		・グループ方針	○				環境配慮型製品の割合の推移	○	○		
		・採用活動	○	○			グループ各社の取組み	○			
		・障がい者雇用の促進	○	○	P22	物流での取組み	○				